

奥州道中  
と越ヶ谷宿(大澤町)

「先人あって、今あり」

於大沢香取神社  
高橋正澄

# 日光道中と越ヶ谷宿（越ヶ谷町 大沢町）

## 1 近世以前の奥州道中

(1) 利根川堤（現 中川、古利根川堤）

千住－亀有－花和田－彦名－吉川－赤岩－粕壁－杉戸－幸手－栗橋

(2) 綾瀬川堤 利根川堤 荒川堤（現 綾瀬川、中川、元荒川堤）

千住－大原通り－八条－柿ノ木－千疋－別府－四条－南百－見田方  
－東方－西方－瓦曾根－越ヶ谷－粕壁－杉戸－幸手－栗橋

(3) 鎌倉街道筋（現 御成道）

川口－鳩ヶ谷－大門－岩槻－幸手－栗橋

## 2 越ヶ谷宿の成立そして発展

- 天正年中（1573～1591）会田出羽資清が越ヶ谷村に土着した当時は居付百姓17軒であったと言われている。  
大沢の住人 深野源七郎が長元3年（1030）6月、富士山に登拝し、大沢の滝から影向石を持ち帰り、この石を御神体として浅間神社を勧請したと伝えられている。このことから、利根川（現 古利根川）、荒川（現元荒川）の自然堤防には、かなり古くから居付の百姓が小さな集落を形成していたと推測できる。
- 天正18年（1590）8月1日家康が入府することにより、150年間続いた戦国時代も終結し安定期を迎えることになった。
- 家康は奥州への公道として（2）を選択し、幕府開く前年慶長7年（1602）奥州道中に伝馬制度を施行した。
- 大沢の町作りに関わった当時の代官 松浦五郎右衛門定政の死が慶長17年（1612）であることから、また同年奥州道中の整備のため大沢忠次郎が奉行として派遣されていたことから見ても大沢町は越ヶ谷町同様、慶長7年以降、着々と宿場の造成があったようである。
- この頃から鷲後・高畑の住民の移動も徐々に進んでいたと考えられる。

- 寛永7年(1630) 草加宿が成立するに及び、草加宿と越ヶ谷宿を結ぶ旧4号線ができ、越ヶ谷新町並も造成されたのではないだろうか。
- また越ヶ谷町の2・7の市(6齊市)の定着、市神社、香取神社の元村からの勧請もこの頃であろうと思っている。
- 越谷宿が繁栄するのは寛永12年(1685)の参勤交代、そして日光社参、物資の流通が盛んになったからであると思われる。

### 3 伝馬負担

- 表間口6間以上…伝馬屋敷…馬一株につき1疋負担
- 表間口6間未満…歩行屋敷…人足1人負担  
(馬 1疋は人足2人分に相当する)
- 越ヶ谷町 伝馬役 120軒半 歩行役 21軒 [宝永4年  
大沢町 伝馬役 73軒 歩行役 5軒 (1707)]
- 伝馬役・歩行役の屋敷株を所有した者が本百姓身分として町政に参加できた。その他は地借店借と称され身分が区別されていた。

### 4 名主・問屋

- 越谷宿は大沢町を含めて4つの行政区画に分かれており4人の名主が、3ヶ月交代で問屋を勤めた。
- 問屋役は多忙・苦勞が多く敬遠されていた。

### 5 問屋場 25人25疋 → 50人50疋

- 問屋場は当初、名主宅持ち廻りであったが、宝永4年2月中町の名主 会田五郎平宅 6間×15間 大沢町名主 江沢太郎兵衛宅 6間×15間の2カ所に定着した。
- 問屋場の経費 越谷町85軒大沢町55軒 合計140軒の伝馬役1軒2両3分の出金・合計385両で賄われていた(安永2年の定め)
- 諸経費の内訳・帳付・人馬差などの給与・事務用品・本陣御用宿の補助・人馬買上賃など

## 6 本陣

- 本陣は大名、幕府の高官、寺社の門跡、公家など高い身分の人が宿泊する宿。
- 越ヶ谷宿の本陣は頭初越ヶ谷本町の会田八右衛門家が世襲で勤めていたが、安永3年(1774)没落、越ヶ谷町から退転した。(経営のいきづまり)名主、問屋、本陣、3役兼帯、その後、照光院が仮本陣を勤めるが、安永9年大沢町の福井権右衛門家が明治3年の本陣脇本陣廃止まで続く。

## 7 旅籠屋

- 天保14年(1843)の調査によると越ヶ谷宿の旅籠屋は52軒、うち80%は大沢町にあった。
- 『諸国道中商人鑑』(文政10年)に記されている越ヶ谷宿の旅籠屋  
越ヶ谷 高崎屋伝兵衛  
大沢 脇本陣つちや所左衛門、京屋、嶋屋(定飛脚宿)  
稲葉屋治左衛門(奥筋武家の定宿)  
虎屋伊左衛門(諸国商人、町人、百姓定宿)  
橋屋権右衛門、脇本陣玉屋彦右衛門(御泊宿)  
羽生屋佐七(飯盛女御座なく候)
- 宝暦年中(1751~63)越ヶ谷宿本陣会田八右衛門付の御用旅籠屋  
大沢町 枯梗屋弥惣兵衛(多々良) 大松屋定右衛門(福井)  
庄内屋久兵衛(深野) 柏屋安左衛門(大垣)  
橋屋弥七(広瀬) など18軒

## 8 食売旅籠屋

- 越ヶ谷宿文化文政期(1804~29) 飯盛旅籠屋 22軒大沢下組に集中していた。享保年間までは江戸の女がほとんどであったが、その後、越後からの女が多くなった。  
文政10年(1827)飯盛旅籠屋1軒あたり銭105貫500文町銭として納めた。  
明治6年食売女解放令により衰退する。

## 9 参勤交代

- 天明3年(1783)3月1日大沢町の大火により本陣焼失、その際、本陣大松屋権右衛門は当本陣を利用する大名に借金を申し込んでいる。<sup>15兩の借入金</sup>  
仙台藩(伊達家)秋田藩(松平家)米沢藩(上杉家)庄内藩(酒井家)盛岡藩(南部家)二本松藩(丹羽家)白河藩(松平家)など38大名
- 弘化5年(1848)仙台藩伊達陸奥守の場合  
家来衆……玉屋彦右衛門(脇本陣)虎屋伊左衛門(脇本陣)かのふ屋富蔵など55軒  
坊主足軽衆……めうが屋つや、河内屋治郎左衛門、難波屋長次郎、なこひら小僧など21軒  
小人衆……亀屋甚内、若野屋金次郎、住吉屋嘉助など14軒  
日雇衆……小林屋、畑野屋など2軒
- 仙台藩一行は本陣を含め93軒に分宿、中には塩屋吉兵衛、三鷹屋嘉兵衛、亀屋甚内、森田屋藤兵衛、伊勢屋太兵衛、ぬしや市右衛門など越ヶ谷町の大商人なども含まれている。<sup>アリキム</sup> <sup>今原若</sup>
- 本陣には祝儀金3両3分、宿泊料金3両1分2朱と銀6匁5分  
風呂代薪8把分 銭4貫文、手伝人足4人分 銭800文、馬5疋の飼料代 銭2貫64文
- 弘化5年 内田豊後守一行の賄い

## 夜

御平	しいたけ、ゆば、長芋、竹の子、三つ葉
御皿	くわい、蓮根、かんぴょう、したけ、ひろゆば
御汁	しいたけ、焼き豆腐、青菜
香の物	大根の味噌漬、しょうがの糍漬
御膳	米

## 朝

- 御平 あんかけ豆腐、しょうが  
御汁 大根の千本切  
御皿 竹の子  
香の物 大根の味噌漬、大根の糍漬

## 弁当

玉子焼き、こぶたけのうまに、よせ豆腐

### 10 道中記に見る大沢町

- 東遊雑記 天明 8 (1788) 古河古松軒  
○ 日光参詣旅行記 文化 5 (1808) 志賀理助ほか  
○ 甲子夜話 文化 10 (1814) 成島司直  
○ 結城使竹 元禄 16 (1703) 水野長福  
○ 円朝旅日記 明治 9 (1876) 三遊亭円朝

将軍の御用金  
阿、二、

### 11 大沢町 2 大事件

- 文化 13 年 (1816) 3 月 7 日  
四丁野村より飛火 197 軒焼失。四丁野村との騒動発生した。  
安政 6 年 (1859)  
関東一帯大洪水による困窮者 260 人の反乱

### 12 大沢町の社寺

#### (1) 香取神社 (大沢町鎮守)

- 寛永年間鷹後の香取神社を当所に移し勧請したと伝えられている。詳細は当社発行の『略記』参照  
○ 慶応 2 年本殿建立の棟札がある。  
○ 文化 3 年 (1806) 建立の 3 の鳥居台石に、大木弥治右衛門、深野弥市、小堤半右衛門など寄進者の名が刻まれている。  
○ 寛政元年 (1789) 大沢町世襲名主江沢太郎兵衛奉納の巨大な御神燈、その他多数の御神燈、狛犬が奉納されている。

- 明治初期大沢町治政の功労者、島根喜兵衛、森川治郎兵衛、広瀬弥七、江沢鳳之輔を顕彰する。明治21年建碑の『故里長四氏記念碑』が建立されている。
- 慶応2年浅草山谷町の長谷川竹次良による本殿四面の彫刻、龍や鳥、高砂の扇、大黒天、紺屋の作業の様子は、見事で市指定の文化財となっている。
- 明治43年粕壁町石工島幸林建設の玉垣は、当町において財を成した田中屋黒田五右衛門後裔によるものである。田中屋は屋号（中大一）である。

## (2) 浅間神社

- 浅間神社は現在の北越谷2-2-20『ドルチェ北越谷』に建立されていた。  
かつて、6月30日には、生まれて1年たった赤子をだいて浅間神社の富士塚に初登山した。また子供の宮参りや七五三のお祝、嫁入りや、嫁に行くときも参詣した。
- 浅間神社は長元3年(1030) 大沢の住人深野源七郎なる者が富士登山をした際、大沢の滝から5色に輝く影向石を持ち帰り、浅間神社の御神体とされたと伝えられている。
- 江戸時代、この辺りは松林が広がった人里離れた淋しい所であったと伝えられている。
- 明治以降は町内管理に置かれたが、大正期には原鉄運送店がこの地を買収して、山正園という庭園に整備した。
- 大正5年2月末、大町桂月は夫人と共にこの地を訪れ、次のように綴っている。

久伊豆神社に詣でたのち、停車場近くまで戻ったがここで山正園を訪れる。松並木あり、小亭あり、池あり、丘の上には浅間の祠がある。原鉄運送店の主人が買収して、庭園として公開したものだという。

- 浅間神社は都市化の波により取り除かれ、今は商店を兼ねたマンションとなり、御神体は大沢の荒井家に移されていると伝えられている。

### (3) 浄光寺と薬師堂

- 新方領大房の浄光寺は古くは利根川、荒川路沿いの自然堤防上に立地した真言宗寺院で熊野山観音院と号した。
- 浄光寺は天正19年(1591)、大同2年(807)創建と伝えられる大房薬師堂別当を兼ね、薬師堂領として高5石が付与された。
- 薬師堂は古くより大江り薬師、押入の薬師、鶉の森の薬師と称された。
- 薬師堂の境内には、
  - ・ 猿田彦大神塔(天保3年)
  - ・ 大乘妙典六十六部供養塔(宝暦14年)
  - ・ 日光日光敷石供養誌(文政10年)自然石裏面には『かとにたつ沙婆と冥途供養石』と刻まれている。
  - ・ 樹齢400年と推定される大銀杏前の堂舎には五智如来立像(大日、薬師、阿弥陀、阿閼、釈迦)が納められていた。享保3年(1718)江戸の鋳物師太田駿河守正儀作で市指定の文化財として貴重である。(現浄光寺に安置)
  - ・ 五智如来の左方に元禄10年(1697)の草ぶきの薬師堂が造立されていた。本尊は高さ約3メートルの及ぶ巨大な薬師如来で左右に12将神像その他本像が納められていた。(現浄光寺に安置)
  - ・ 処刑された罪人の縁者が享保10年(1725)に建立した北向き地蔵が立っていた。
  - ・ 元荒川に沿った大房、大林、大沢の地は砂地の自然堤防地帯で桃や梅の花樹栽培が盛んで、江戸期から文人墨客も多く来遊している。
- 明治35年浄光寺を中心とした地域に観光を目的とした古梅園が開発され、東武鉄道も盛んに宣伝した。株のまわり、1メートル前後の古木あり、樹姿によって『天の橋立』などの名称が付けられた。

『寒けれど、あの一郡も梅見客』 高浜虚子



#### (4) 照光院

- 真言宗梅華山照光院と号す。江戸時代初期、承応元年（1652）の六地藏や万治2年（1659）建立の六観音の石塔が残されている。
- 大澤小学校創設の地
- 鐘撞堂周辺の無縁仏墓石には飯盛女の墓石がある。
- 安永3年（1774）越ヶ谷本陣、会田八右衛門退転後6年間仮本陣を勤めている。
- 越ヶ谷本陣、大松屋福井家の墓所がある。
- 『越ヶ谷瓜の蔓』『大沢猫の爪』『御休泊御用日記』などの地誌を編さんした福井猷貞 明和6年（1769）生、文政5年（1822）波の戒名 『賢照院泰誉猶貞居士』（猷貞）  
『慈照院妙誉貞昌大姉』（夫人）  
辞世句 『居ころのよき学の戸や煉（秋）の風』

#### 筆子墓石（1）天保5年

『樹光院宝路蜃兆居士』（師匠）

『賢光院詠月政雲大姉』（明治2年10月24日俗名まき、行年57才）（後添）

『宝寿院兆室妙光大姉』（夫人）

辞世句『降る雪も面しろいもの死出の旅』

#### ○ 筆子墓石（2）文政5年

『法光院観海雪路居士』（師匠）

『白光院観雪妙路大姉』（夫人）

辞世句『桐一葉無理いふましとおもひけり』俗名 原田雪路こと

#### (5) 光明院

- 香取山光明院と号す。町名主問屋 江沢家の墓所
- 鎮守香取神社の別当寺
- 遠州流生花の師匠『春暉庵一樹之墓』がある。弟子大沢町髪結渡世永蔵が造立する。
- 塩かけ地藏像が建立されている。
- 寛永16年（1639）建立の宝篋印塔、旅籠屋、大黒屋の巨大な墓石が造られている。

## (6) 弘福院

- 元禄2年(1689)日光登山の途中、円空は阿弥陀如来坐像(36.8cm)を当院に奉納している。
- 延享5年(1748)大沢町、島根宗弥寄進による巨大な宝篋印塔がある。  
これは、寛保3年(1743)弘福院観世音開帳の際、島根宗弥が頭取で花火興行を行ったが、これがもとで本堂庫裏が焼失した。宗弥は責任を取って金一千両を投じ再建したが、この竣工記念として造立された塔である。
- 天明4年(1784)当院は再び火災にすべてを焼失している。
- 当院観世音開帳は盛大で『女手踊り』や『子供芝居』などの興行を行い町民を楽しませた。

## (13) 千住馬車鉄道

- 明治26年2月から30年3月まで千住茶釜崎から粕壁最膳院まで千住馬車鉄道が通っていた。
- 馬車一頭立て、乗客店員12人、6人が向かい合って座り、駅者車掌が乗って千住～粕壁間40キロメートルを3時間かかって運行されていた。(乗合馬車の2倍の速さ)
- 大沢駅は大松屋(本陣)前、大沢から千住茶釜崎まで片道40銭、所要時間約2時間とのことである。
- 草加で一休み、馬と共に一息入れた。千住からは2頭立の乗合馬車で浅草広小路まで行くことができた。
- 後、草加馬車鉄道(大沢～千住茶釜橋間往復24回)になるも東武鉄道開業により、明治33年2月2日に廃業した。

## (14) 東武鉄道

- 越ヶ谷駅(大沢駅)は明治32年8月27日東武鉄道開業とともに開業する。(当初千住、西新井、草加、越ヶ谷(大沢)、粕壁、杉戸、久喜)
- 開設当時、客車、貨車の混合列車一日7往復の運行であった。

- 明治41年埼玉鴨場開設にともない越ヶ谷駅には貴賓室が備えられた。
- 大正9年越ヶ谷町に越ヶ谷駅が新設されたため『武州大沢駅』と改められる。
- 昭和37年よりの区画整理により昭和41年には北越谷駅と改められた。
- 宅地化が進み、梅、桃の木伐採、昭和31年北越谷堤に桜の木が植樹された。
- 東武鉄道昌歌 明治32年9月発表 (越ヶ谷 (大沢) 桃がテーマ)

(15) 明治20年大沢町地誌

戸数	352戸	人工1550人	{ 男 748人 女 802人
物産	米、糯米、大麦、小麦、粟、大豆、蕎麦、実綿、藍葉、製茶、菜種、小豆、蚕豆、まゆ		
民業	農業142戸	商業115戸	農商兼業32戸
	工業65戸	医業3戸	雑業74戸
学校	町の中央字2丁目 本町及び大房の共立		
	生徒 男49人	女45人	計124人 教員4人
牛馬	11頭 (馬)		
車	荷車大六以下70車両	人力車	{ 一人乗り 22車両 二人乗り 41車両
小廻船	31艘		

## 参考文献

越谷市史	越谷教育委員会
越谷風土記	〃
越谷市文化財	〃
越谷ふるさと散歩	〃
越谷今昔物語	〃
日光街道繁昌記	本間清利
越ヶ谷瓜の蔓	福井猷貞
大沢猫の爪	〃
大沢町越ヶ谷町	加藤幸一
北越谷（大沢）から	高崎 力
せんげん台（大泊）	
香取神社略記	香取神社
栄広山清浄院寺記	岩井 茂
蒲生歴史物語	蒲生地区コミュニティ推進協議会
最新日本史	図書刊行会

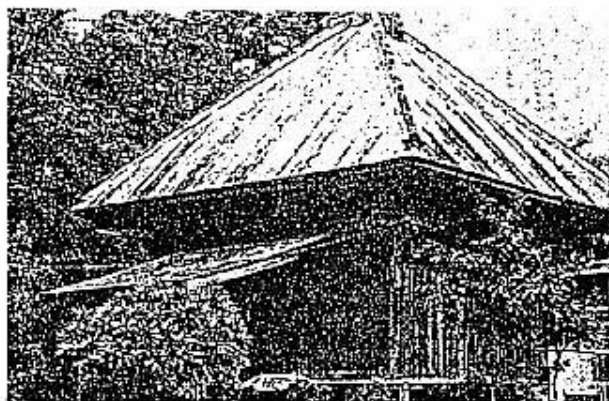
昭和33年 売春防止法。此、大沢に5~6軒の銀座旅館屋  
がみつた。



北越谷浄光寺本堂

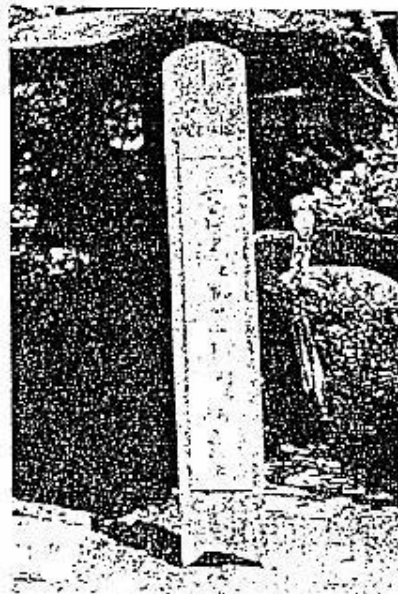


薬師堂境内奥の北向き地藏

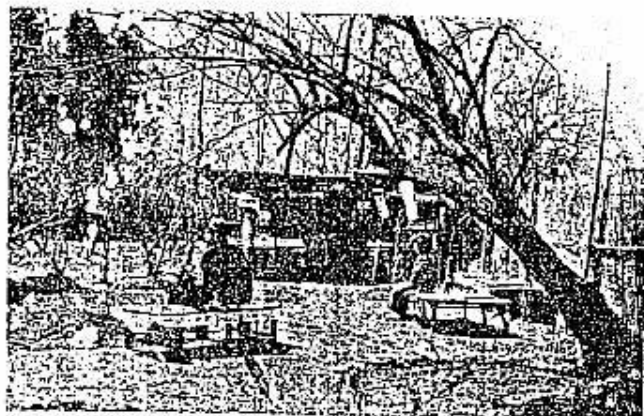


北越谷の薬師堂

5



高浜虚子短冊



明治期の大房浄光寺の古梅園 (絵葉書)

1~5

(越谷風土記より)

越谷市教育委員会

# 銅造五智如来立像

(越谷市の文化財より)

市指定・彫刻

越谷市教育委員会

昭和61年2月26日指定

●越谷市北越谷4-8-5(浄光寺)

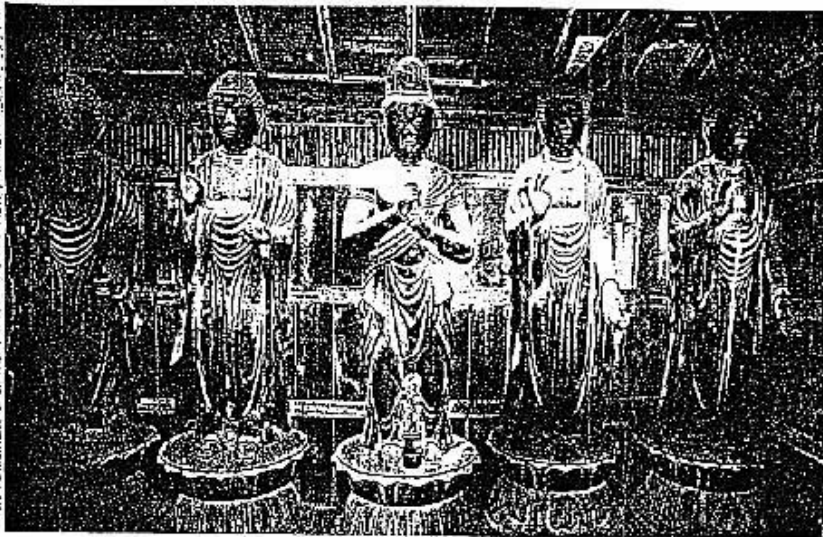
大日・薬師・阿弥陀・阿闍・釈迦は、五智如来と称され五つの智を授ける仏として、江戸時代庶民信仰の的と

なった。北越谷浄光寺境内にある五智如来立像は、享保3年(1718)から同5年(1720)にかけて奉納された青銅によ

る5体の立像で、製作者は江戸の鋳物師太田駿河守正儀。なお、青銅によるこの種の仏像は、越谷にはその例が少なく貴重な鋳像物といえる。

〔総高〕

大日如来立像	164.5cm
薬師如来立像	161.5cm
阿弥陀如来立像	163.0cm
阿闍如来立像	163.0cm
釈迦如来立像	161.5cm



7



弘福院三笠印塔

8



大沢浅間社 (今はない)

7~8

(越谷風土記より) 越谷市教育委員会

# 香取神社の彫刻

(越谷市化貝支所)

市指定・彫刻

越谷市教育委員会

昭和58年3月31日指定

●越谷市大沢3-13-38 (香取神社)

大沢香取神社の奥殿の板壁には、大黒天や高砂の翁・龍などさまざまな彫刻がほどこされている。

民俗資料といえる。なお、越谷にはこうした労働作業を彫刻したものはここにしかみられない。

この壮麗な奥殿は、棟札によると慶応2年(1866)の再建、彫物師は浅草山谷町長谷川竹次郎で、この板壁の北面には、川面で布を洗ったり、製品を竹竿にかけて干したりする紺屋の労働作業を表現した図柄が彫刻されている。

江戸時代、越ヶ谷・大沢は、紺屋の盛んな所で、当時の作業状況を知る貴重な



10



大沢町香取神社

(越谷ふるさと散歩会)  
越谷市教育委員会



弘福院の宝篋印塔

(越谷市ふらさと散歩り)  
越谷市 放歩り



大沢光明院塩かけ地蔵

(越谷市ふらさと散歩り) 越谷市の自然委員会

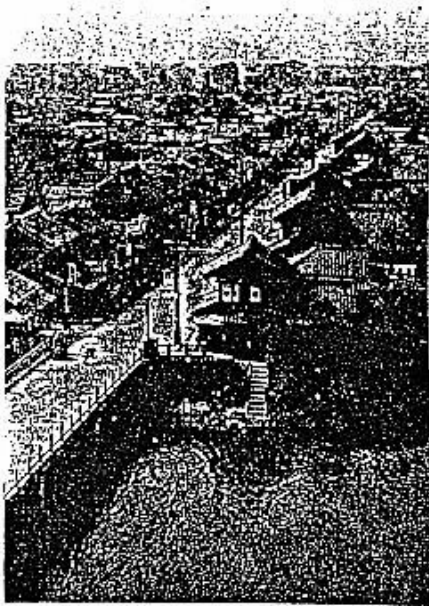


大沢町照光院



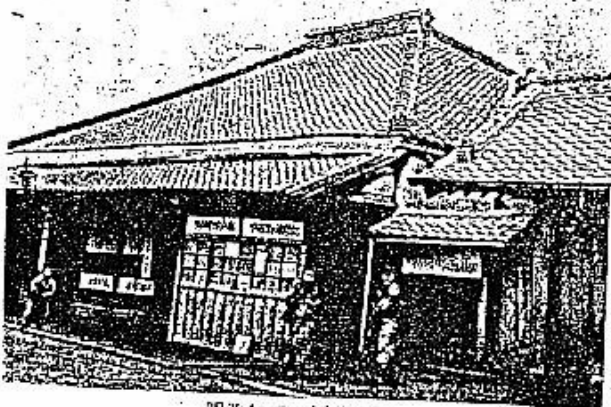
14

(越谷ふるさと散歩より)  
越谷教育委員会



昭和33年の大沢町の町並手前は大沢堀

15 (越谷ふるさと散歩より)  
越谷市教育委員会

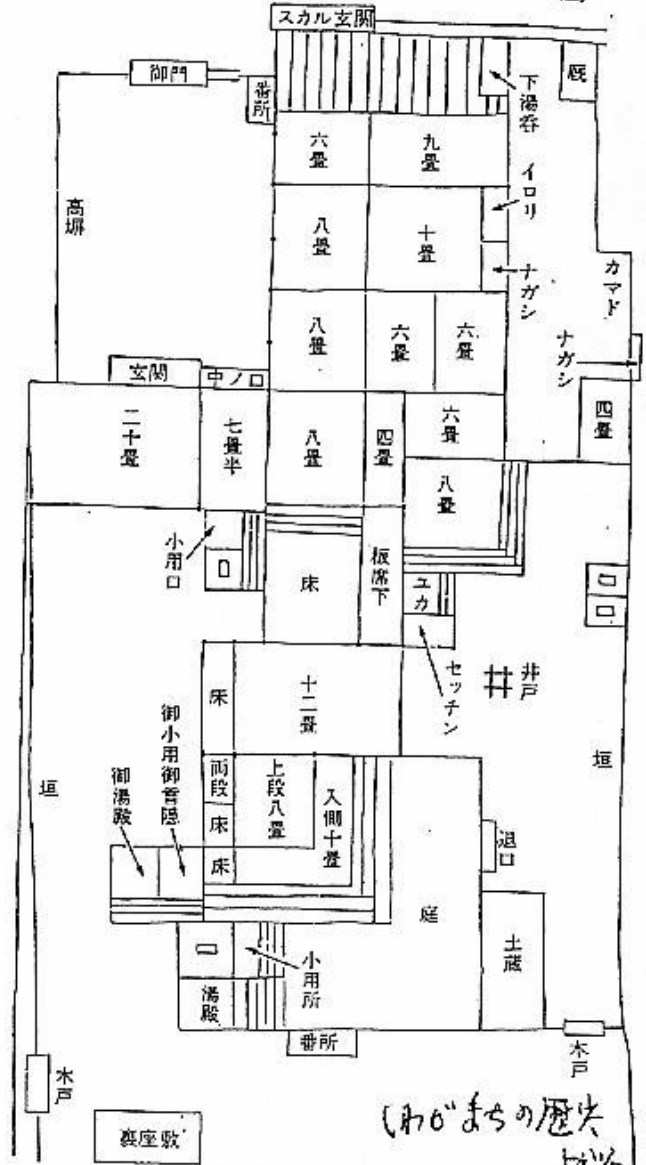


明治初期の福井本陣

16 日光

日光道中 (奥州街道)

江戸



裏座敷

(わがまちの歴史  
越谷より  
越谷)

福井本陣屋敷図 大沢町の本陣の平面図。

111 流通の発展と越谷

17(1)

(わがまちの歴史越谷51)  
越谷市教育委員会



大沢町の旅籠屋(商家高名録) 諸国通中商人

17(2)

(越谷)風土記より  
越谷市教育委員会



越ヶ谷宿旅籠屋虎屋伊左衛門家店

18

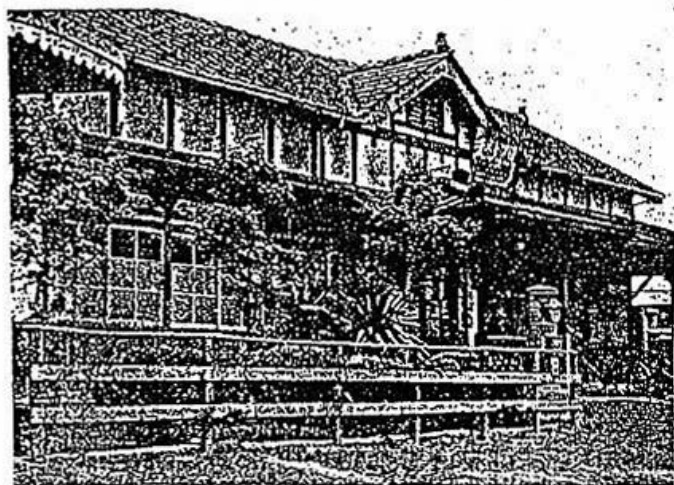


大松清浄院杉浦家墓所

越谷風土記より  
(越谷市教育委員会)

19

(越谷ふるさと散歩51)  
越谷市教育委員会



昭和30年頃の北越谷駅(当時武州大沢駅)